

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000705	
法人名	有限会社グループホーム花	
事業所名	グループホーム花(1階)	
所在地	北海道小樽市最上2丁目19番9号	
自己評価作成日	令和5年3月31日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172000705-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172000705-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前年度はコロナ過の外出自粛の為、毎年継続して行っている地域交流(近隣の保育園や中学校、当ホームの敷地内でのフリーマーケット、町内会館での予防体操に参加、近隣のお寺の行事への参加)は固る事はできませんでしたが、コロナ過の制限は多い中、感染予防対策を行い、近隣のお寺の行事への参加、戸外への外出も行いました。ホーム以外の敷地内にある畑で豆撒きから収穫まで入居者様と一緒にしたり、季節の行事や、七夕、夏祭り、敬老会の日、ハロウィンクリスマス会、年越し、書初め、節分、ひな祭り、入居者様全員の誕生日会等は入居者様が一緒に行うハロウィンの仮装が、訪問診療で訪れた医師や看護師から好評を頂く事が出来ました。又、毎月のホームでの様子を撮影した写真を掲載している「花たより」を各フロアごと作成し、個別で手書きの手紙を添えて、ご家族様に毎月送っております。なかなかコロナで面会が難しいご家族にとって、ホームの様子が分かり安心と喜ばれております。LINEを使用しての面会も行うことができました。コロナ過により制限が多い中、感染予防対策を行いながら状況に応じて柔軟に面会、利用者にも楽しんでもらえる行事やレクリエーションの充実を実践することが出来ました。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年4月19日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、最上地区の天狗山に程近い高台の住宅街にあり、徒歩圏内に商店やドラッグストア等が並ぶ交通、買い物に便利な環境下に立地している。運営法人は、長年介護事業を担ってきたことから、介護の実体と現状を熟知しており、コロナによる自粛前は各種ボランティアの受け入れや、事業所の豊かな敷地を会場に、フリーマーケット、出店を地域への還元として毎年開催する等、地域に根差した住民の信頼に資する運営に努めてきた。現在はまだまだ大規模な行事は控えざるを得ない状況にあるが、基本的な感染防止対策を徹底しながら、禍前とほぼ変わらぬ地域との交流の機会作り、利用者が希望する場所への外出を実現させた事業所の尽力を高く評価したい。コロナが明ける今春以降のアイデア溢れる取り組みが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時には内部研修と共に、必ず理念、目標等の研修を行い、各リビング、事務所の目の見える所に掲示し共有して実践につなげている。	事業所理念を目立つ場所に掲示し、日常的に共有している。毎月立てる目標通りの支援が出来ているか会議、研修の場で検証、協議しながら、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の外出前には毎年、欠かさず、フリーマーケットを開催し、地域とのつながりの交流を行っていた。近隣のお寺の行事の参加、保育園児、中学校は来訪され、地域の一員として交流している。	コロナ禍において、相互に往来を自粛していた地域との関係については、感染防止に留意しながら積極的に地域行事に参加したり、学校等からの訪問受け入れ等、地域での交流を再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣での散歩中や行事に参加している時、職員の対応等を見て頂いた。その時に実践しているサービスの内容相談等アドバイスや紹介を行ったり地域の人々に向けて活かしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、包括、近隣住民、家族の方にも参加して頂き、サービスの実際が分かるように取組状況の内容報告、話し合いの場を行い、意見をいただいている、サービスの向上に活かしている。	家族、町内会代表、行政の協力を得て、集合型で定例開催している。運営状況や事業所としての目標の達成具合等を報告し、議事録を家族にも送付しており、意見を取り入れることで、サービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所での集団指導の参加、分からない時は直接担当者に聞き、実情やサービスの向上に活かしている。	行政窓口からは、主に運営推進会議や電話で助言、指導を得ている。また、事業所の運営状況等の情報交換を行い、開かれた事業所作りに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等の施錠を含め、施錠をしないケアの取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催しており、内容について全職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、内部研修の機会等で具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝の申し送りでの周知、内部研修会、身体拘束委員会にて話し合い、互いに見過ごさず事のないように防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方がいた。学ぶ機会があり、話しをする機会もあり、活用し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行っている。理解や納得をして頂き、不安や疑問等ある時は直ぐに対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿に、意見、要望欄を設けている。面会時、電話やお手紙等でのやり取り時には必ず意見や要望、意向など、それらを運営に反映させている	主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、会議の場で検討して運営やケアプランに反映している。お便りの他、電話、面会等、柔軟に情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや個人面談時、会議時に常に提案を聞く機会を設けて反映している。	日々の申し送りや個別面談等の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、出された意見を検証して、介護姿勢や業務の改善に活かしている。管理者・事務長が随時、相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価、及び日々の勤務状態や努力に応じた評価を行っている。意見や要望を聞き、向上を持って働ける様に環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人の力量を把握し、働きながらトレーニングして行く事を進めている。認知症介護実践者研修の参加あり		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナもあり、ズームでの研修の参加、外部の方の来訪にて勉強会に参加し、サービスの質の向上させてさせていく取り組みをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する事前にご本人との面談し、困った事や不安な事、要望を聞き、本人の安心した生活が送れる様に確保するための環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様とのやり取りにて、情報収集をし、不安や要望に耳を傾けながら関係づくりに沿う様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に情報収集をし、本人や家族様が必要としているサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取り、本人に確認しながら役割を持ちながら暮らしを共にする物同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙に日々の状況報告、何かあれば情報交換を行い、本人、家族との意向も取り入れながら絆を大切にしながら本人を支えながら関係を築んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の通いなれた病院等、ご家族様の協力を得ながら付添いや馴染の場所の外出は職員同行している。	希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。引き続き、感染防止に留意しながら、柔軟な対応で関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を把握。孤立しない様に関わりを持って支え合える様に支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了した後も、関係性を大切に、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、事前に情報収集をし、希望や意向の把握に努めている。本人の聞き取りもあり、終末期の意向も聞き取りも実施している。	職員は家族の協力を得ながら、利用者一人ひとりの思いや終末期の意向を含めて聞き取り、個々の誇りや個性を損なうことのないよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報収集し、ご家族様や担当のケアマネージャーからの聞き取りにてサービスの利用の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方は申し送り、生活記録、ノートの活用、又、フィンワークスでの活用を利用し、現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心とし、担当職員を付け、聞き取りを行い、日々の様子を意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画書の作成している	ケアマネージャーを中心に利用者、家族の意向を据えながら短期目標を設定し、計画を作成している。日々の職員の観察力を大切に課題評価を行い、医療機関の意見を踏まえて、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に記入し、職員間にて情報を共有できるようにチェック表があり、実践か介護計画表の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響により、控えたが、その時々生まれるニーズに対応して柔軟な支援やサービスの多機能に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の豆まきにお寺にでの豆まきに参加、近隣の最上会館にて予防体操に4月から参加、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向をきき支援している。日常の様子を適切に情報提供し、良い関係を築きながら適切な医療を受け入れる様に支援している。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。医療機関への受診結果や看護師による健康管理の経過については、記録を基に職員間で共有し、家族にも詳細に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員と看護師は状況報告、ラインワークスの活用、気づきを互いに伝え、相談しながら適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況把握がわかる様に、入院先の医師や看護師、医療連携室、その他の方との関わりを大切にしている。又、本人の様子を見に行くなど、病院関係者との関係を作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期のあり方について、事業所の指針を説明し、同意を得ている。見取り支援は行っていないが、医療体制があり、本人、家族の意向により、連携を取りながら看取りを行った。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、看護師の指示、助言の共有に努め、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナもあり、朝の申し送り、又は個別にて内部研修会で救急に必要に応急手当方法などを学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中、夜勤帯を想定した避難訓練、自家発電機を使用し、災害を想定した訓練を実施している。登録している地域住民の方の参加もあり協力体制を築いている。	津波・地震等の自然災害、火災を想定した非常災害訓練を定例で実施している。指定避難場所や地域町内会との協力体制、役割も含めて確認しながら、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の立場になり、人格を尊重し、プライバシーを損ねない様に言葉かけや対応をしている。	職員は、研修を通じて接遇が介護の基本であることを理解し、声掛け、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり、自己決定出来るように働きかけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、精神面を配慮しながら、一人一人のペースを大切に、穏やかに、希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事には、化粧、おしゃれが出来るように支援している。季節に応じた服のアドバイスも行っている。訪問美容室も月に1～2回来訪している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、又、食べやすい様に食事の提供、当番表にて一緒に準備や食事、片付けを実施している。	献立は利用者の希望を取り入れており、季節感・彩りを大切にしている。当番表を作成し、皆に配膳準備・片付けなどを手伝ってもらい、楽しみながら力を活かせるよう支援している。行事食の他、買い物支援で購入した食べ物で外食気分を楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に食事量、水分量を残している。水分量が少ない場合は声掛け促しを行い、一人一人の状況に応じ、好きな飲み物を飲んで頂く様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいを行い、歯科の指導を受けている。清潔保持に努め、本人に応じた口腔ケアを実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表があり、確認出来るようになっている。排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々のタイミングを時間や仕草で把握し、トイレへの誘導を行っている。羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。乳製品、水分の提供で、自然な排泄となるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす時間を設けている、水分や乳酸菌飲料やヨーグルト等を提供し、腸内環境を整えている。必要に応じ、医師に相談し予防に取り組みに組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調の変化を把握し、入浴時にはタイミングに合わせて入浴をしている。入浴剤を使用し、香りや色を楽しめるように支援している。同性介助者の希望がある時は対応し支援している。	声かけに工夫しながら、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。毎日お湯はりしており、事業所都合ではなく、同性介助等、利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のその時の状況により、部屋にて横になり休息している。安心して気持ちよく眠れているように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量については理解できるように個人ファイルに挟んでいる。薬局や医師、看護師に確認出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割があり、自分らしい生活を送れる様に生活リハビリも兼ねて役割の分担を実施している。コロナもあり、ホーム内でのレク行事を行いカラオケやスクリーンにて映画鑑賞等気分転換等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防対策をし、季節に合わせた外出先を選んで車でドライブに戸外に出かけた。普段いけない様な場所でも本人の希望をきき、近隣のお寺の園内、散歩や畑にての手伝いをし出かけるように努めた。	個別に声掛けし、散歩や買い物等、気軽に外出が出来るよう支援している。閉じこもることのないよう、感染防止に留意しながら外気浴、外出の機会を設けたり、体操やレク等で運動を積極的に取り入れることで、心身の状態維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に金銭管理についての説明し理解を得ている。自己管理が可能な入居者様に限りお金を所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に、本人と家族がやり取りできるように携帯電話を持参される方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓は大きい為、季節感を感じられ、リビング内や壁、廊下に季節に感じる飾り付けを職員、入居者の手作りの物を飾っている。リビングではCDやラジオ、演歌、ジャズ、童謡などの音楽が常に流れている。冬季には加湿器を設置し、各居室の加湿として濡れたタオルを干して対策し、乾燥を防いでいる。又、窓を開けての換気も行い、工夫している。	リビングは採光も良く、温度や湿度が適切に管理されており、利用者と職員の手による四季を感じる飾り付け等が飾られている。共同生活の場として、換気や消毒等、感染防止対策に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にリビングや憩場に来ては気の合った利用者同士で会話をしたり、本を読んだり、思い思い過ごしている。憩場のソファに座りテレビを見たり過ごせるような工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明時に本人や家族の協力を得て、相談し、本人の使い慣れた家具や仏壇、写真等、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には利用者の導線に留意された配置となっており、長年愛用した家具が持ち込まれ、家族写真が壁に貼られるなど、家庭的で落ち着ける居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の部屋の入口に表札、トイレは分かりやすい様に大きな文字の貼り紙をしている。トイレ内、廊下には夜行テープを貼り暗くても分かるようにしている。トイレ、廊下には手すりも備えつけられている。安全に移動でき、自立した生活が送れる様に工夫している。		